

1. 評価結果概要表

作成日平成20年12月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4292400035
法人名	医療法人 NANOグループ
事業所名	グループホームなずな
所在地	〒854-0407 長崎県雲仙市千々石町庚1297番地1 (電話)0957-74-5125

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 1月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,980 円	その他の経費(月額)	水光熱費100円/日・実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	79歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科・明島整形外科・吉田歯科・菜の花クリニック・木戸医院・城代歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かで緑豊かな場所に立地しており、居間からは山々の緑が見渡せる環境である。ホームの周囲には畑も多く、四季折々の農作物や自然の草花を通して季節感を感じることもできる。ホーム周辺には高い建物がなく、室内に自然の明るい光が入り込んでおり、廊下などには椅子が置かれ、入居者が思い思いにゆったりと過ごせる場所づくりがなされている。ホームでの生活は、入居者一人ひとりが安心して過ごせることが最も大切にされ、職員は入居者に寄り添い、さりげなく自然に支援している。運営母体が医療機関のため、医療面の連携はスムーズで、緊急の場合も迅速な対応が可能となっており、医療面からのケアは充実している。ホームの理念である「地域の中で自然に触れ、家庭的な雰囲気の中で毎日楽しく笑顔で過ごせるホーム」を実現するために管理者を始め職員全員が日々のケアに熱意を持って取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点はホーム独自の理念の作成や入居者及び家族が意見・要望をしやすい機会の確保、ケアプランの長期目標の見直しなどが挙げられており、理念の作成については全職員での話し合いが行われ、理念を作成し、それを具現化できるよう日々理念を確認しながら取り組んでいる。入居者や家族が意見を表す機会として玄関に意見箱を設置済みであり、ケアプランの長期目標の見直しについても、現在は定期的な見直しの際に必要な見直しを行なっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日頃の業務を振り返り、点検する機会と捉え、職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では地域住民の方、家族代表、市の担当者、ホームの管理者及び職員の代表が参加し、2ヶ月毎に開催されている。会議ではホームの現況報告や活動報告がなされ、それに基づいて話し合われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃から意見や要望、苦情は気軽に言っていただくようお願いしている。直接言いにくいことはホーム内に設置している意見箱に投函されるように伝えている。意見や要望、苦情等があった場合には速やかに職員会議で検討し、改善するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事への参加を地域に呼びかけたり、近くの小学校との交流も行なっている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでは法人の理念を掲げていたが、グループホームの主旨を踏まえ「地域の中で自然に触れ、家庭的な雰囲気の中で毎日楽しく笑顔で過ごせるグループホーム」とのホーム独自の基本理念を新たにつくり、家庭的な雰囲気で暮らせることを中心に置いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が周知できるよう、リビングの見やすい位置に理念が掲示されていると共に、日々の業務の中で、常に理念を意識したケアがなされるようにミーティングや会議等の場で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事への参加を地域に呼びかけたり、近くの小学校との交流を行なっているが、日常的な交流には至っていない。		今後さらに地域の行事や催しなどに参加したり、ホームの行事に地域の方々をお招きするなどして、積極的に日常的な地域との交流を図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日頃の業務を振り返り、点検する機会と捉え、職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果は会議の場で報告し、改善計画についても全職員で検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方、家族代表、市の担当者、ホームの管理者及び職員の代表が参加し、2ヵ月毎に開催されている。会議ではホームの現況報告や活動報告がなされ、それに基づいて話し合われている。		会議では報告が中心であり、あまり意見が出ないのが現状であるが、議題を工夫し、委員(自治会長、民生委員など)を増やすなどして、会議の主旨である地域に開かれたサービスとしての質の確保に向けた意見交換ができるよう努めることが望まれる。

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて連携し、さらにサービスの質の向上に協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた際に入居者の状態を報告するようにしている。また遠方にいらっしゃる家族へは必要に応じて電話連絡したり、便りに写真や手紙を添えて近況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や要望は気軽に何でも言ってもらえるようお願いしている。また直接言いにくいことは、ホーム内に設置されている意見箱に投函されるよう伝えている。意見や要望、苦情があった場合には職員会議で検討し、改善するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった場合には入居者へ十分説明を行い、理解していただいている。異動の場合には、時々ホームに来てもらうなどして、入居者のダメージを最小限に抑える配慮をしている。また、家族にも報告するようにしている。新人職員の紹介については広報誌にて写真つきで紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内及び外部の研修受講は、職員の勤務経験等を考慮した上で、必要な研修に多くの職員が参加できるようにしている。研修案内の文書は全職員に回覧し、研修参加を希望する職員が参加できるように勤務の調整を行なうなどの配慮をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホームケア研究会に加入して、研修会や勉強会、交流会に積極的に参加し、相互に刺激し合いながらさらにサービスの質の向上を図っている。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居後も本人が安心してホームでの生活を送れるように家族とホームが連携し、自宅への外出や外泊、家族の面会等の調整を行いながら、新しい生活環境での混乱を最小限にする工夫を行なっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員は互いに協力し合い、共に暮らしていくことを大切にしており、食事準備や片付け、洗濯物たたみ、シーツ交換、花壇の手入れなど一緒に取り組んでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや意向を把握するために日々の関わりの中でそれとなくお話を伺ったり、普段の生活の様子から把握に努めたりしている。また家族にも協力をお願いし、家族を含めて話し合い、検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりに即した介護計画となるように、本人は勿論家族及び関係する方々からも要望・希望をお聞きし、またケア会議において全職員の意見も聞きながら、それらを介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の定期的な見直しを行っている。これまでの進捗状況を把握・検討した上で新たな介護計画を作成している。また、定期的な見直し以前に介護度の変更や状態に変化があった場合にはご家族も含めて検討し、見直しを行っている。</p>		<p>それぞれの介護計画に基づく支援の経過や取り組み状況の記録をさらに詳しい内容にし、見直しの際にそれらを検証することで、さらにより良い介護計画へと繋げていくことが望まれる。</p>

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添い支援や帰省時の送迎支援など、入居者一人ひとりの要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後の継続的な医療の確保の観点から、かかりつけ医との連携を重視しており、入居者が安心して医療を受けられるように支援している。かかりつけ医からは必要に応じて往診等の対応を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についての指針を作成し、入居時に説明し、同意を得ている。実際にそのような状態となった場合には、家族、主治医、事業所が話し合い、方針を共有したうえで対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけや対応が、場合によっては身体拘束や虐待になることを十分理解し、一人ひとりを尊重した態度で接している。個人情報保護についてはその重要性を管理者は日頃から職員に説明し、取り扱いについても守秘義務を徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあるが、食事の時間や入浴の時間などできるだけ入居者の希望に添って生活が送れるように柔軟に対応している。		

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際は切り込みなどの下ごしらえをさせていただいたり、片付けも一緒に行うなどして入居者の力を発揮できるように支援を行っている。食事の際はゆっくりゆったり食べることを楽しめるような雰囲気づくりに努めている。		現在は食堂のスペースが狭く、入居者と職員は別々に食事を摂っているが、一緒に食事することでさらに入居者と職員の親近感も増し、それが入居者の安心した楽しい食事へと繋がっていくと思われるので、食事テーブルの配置を工夫するなどして職員も一緒に食事を摂ることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からはいつでも入浴できるよう準備しており、希望に添って入浴支援を行っている。入浴拒否傾向にある入居者へは、職員がそれとなく声かけを行い、さりげなく誘導している。どうしても拒否される方に対しては、清拭を行うなどして全員の清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握したうえで、ホームにおいても本人の趣味や好きなことが生かせ、楽しく生きがいのある暮らしが送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や気候の良い日には近隣を散歩したり、あるいは花見などの行事の際に外出している。		入居者の日々の生活がさらに豊かなものとなるように日用品や食材の買い物、天気の良い日のドライブなど、日常的な外出を多くしていくことが望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害や問題を理解しており、日中は玄関を始めホームの出入り口には鍵をかけていない。入居者が外に出られた際は職員がさりげなく付き添い、見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、それに基づき年2回、消防署の協力のもとに隣接のデイサービス事業所と合同で避難訓練、消火訓練などを行なっている。		災害訓練については火災時の想定だけでなく、風水害などさまざまな災害を想定した訓練が必要と考えられるので、台風時も想定し、実施していくことが望まれる。また、非常時の備品や持ち出し品についても検討され、必要なものを備え、ライフラインの確保をより強化されることに期待したい。

グループホーム なずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量を確認し、必要な方へは水分摂取量についても把握している。栄養のバランスや摂取カロリーについては運営母体の医療機関の管理栄養士に定期的に確認していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、廊下などの共用スペースには家庭的で季節を感じられる装飾がなされ、台所はオープンキッチンにして料理を作る際の音や匂いを感じてもらえるような工夫があり、食欲増進に繋げたり、気軽に家事に参加できるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日用品や収納タンスなど入居者の馴染みのもの、使い慣れたものを出来るだけ持ってきていただくように家族にお願いするなど、安心した居室空間づくりに取り組んでいる。		